

各位

三井不動産ビルマネジメント株式会社

## 「日清食品 2026WORLD LACROSSE 女子世界選手権大会」の概要説明 および大会に出場するラクロス女子日本代表の活動に関する記者発表会を当社にて開催

三井不動産ビルマネジメント株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:吉田 直生、以下「当社」という。)は、公益社団法人日本ラクロス協会(理事長:佐々木 裕介、以下「JLA」という。)とパートナーシップ契約を締結しております。当社がサポートしているラクロス女子日本代表活動および「日清食品 2026 WORLD LACROSSE 女子世界選手権大会」(以下「本大会」という。)に関する記者発表会が当社にて行われ、会見に当社社員の河合選手も出席したことをお知らせします。

本大会は、世界のトップ女子チームが集結し、2026年7月24日(金)から8月2日(日)までの期間、大井ホッケー競技場および秩父宮ラグビー場を会場にて行われる予定です。

当社はJLAの日本代表プラチナパートナーとして、今後もラクロス日本代表の活動を継続的にサポートしてまいります。



会見に出席した(右から)藤田主将、宮沢ヘッドコーチ、櫻井選手、河合選手

### ■「日清食品 2026 WORLD LACROSSE 女子世界選手権大会」大会開催概要

【期間】2026年7月24日(金)～2026年8月2日(日)

【会場】予選リーグ／順位決定トーナメント会場:大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場(東京都品川区、大田区)

準決勝戦・決勝戦／3位決定戦会場:秩父宮ラグビー場(東京都港区)

【出場チーム】16の国／地域(各大陸予選にて出場権を獲得したチーム)

※詳細な大会スケジュールは、今後発表される予定です。

[【Release】2026年ラクロス女子世界選手権大会、日清食品がタイトルパートナーに決定 ～東京にて「日清食品 2026 WORLD LACROSSE 女子世界選手権大会」が開催～ | JLA | 公益社団法人日本ラクロス協会](#)

## ■ラクロスについて

棒の先に網のついたスティック（クロス）でテニスボール大の硬質ゴム製のボールを運び、約180cm四方のゴールハシュートし得点を競う団体球技です。両チーム10人、15分×4クォーター制で、サッカーとほぼ同じサイズのフィールドで競技が行われます。その歴史は17世紀にさかのぼり、北米の先住民が祭事や鍛錬のために行っていたものを、フランス系の移民が発見したのが始まりとされています。現在は95の国と地域で親しまれ、世界競技人口は約110万人に達します。日本では大学生を中心に人気スポーツとして定着し、国内延べ競技人口は11万人に上ります。

日本代表は近年の国際大会において好成績をおさめており、2022年の「第11回ワールドゲームズ」では男子日本代表が3位(銅メダル)、2024年の「WORLD LACROSSE 女子U20世界選手権」では女子日本代表(U20)が3位(銅メダル)を獲得しました。さらに、2025年の「女子ラクロス アジアパシフィック選手権」(2026年女子世界選手権の予選)では優勝を果たしています。2026年には女子競技、2027年には男子競技の世界選手権大会が、それぞれ東京で開催されます。

## ■本件に関するお問い合わせ

三井不動産ビルマネジメント株式会社 総務部 総務グループ  
<https://www.mfbm.co.jp/contact/index.html> 「その他お問い合わせ」

## 三井不動産ビルマネジメント株式会社について

当社はオフィスビル等のプロパティマネジメントを中心にテナント企業や地域・社会に対するさまざまな付加価値の提供を行っています。社会・経済環境の変化とともに、「働き方」が多様化し、オフィスは単に働く「場所(スペース)」ではなく、創造的で革新的な価値を生み出す「場面(シーン)」になっていくと捉えています。

「オフィス」「働き方」の新たな在り方をつくっていく「Only One 企業」としての強い覚悟意志をもって「ビジネスシーンの明日を変えていく」ことに挑戦し、さらなる進化を続けてまいります。

※三井不動産ビルマネジメント株式会社 コーポレートサイト：<https://www.mfbm.co.jp/>

## 三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「&マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024年4月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY(重点的に取り組む課題)」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ&インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取組み、サステナビリティに貢献していきます。

### 【参考】

- ・「グループ長期経営方針」<https://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/innovation2030/>
- ・「グループマテリアリティ」[https://www.mitsufudosan.co.jp/esg\\_csr/approach/materiality/](https://www.mitsufudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/)